



身延山大学

開学20年の歩み

20th
Anniversary

MINOBUSAN UNIVERSITY

開学から現在まで

平成 6 (1994) 年	文部省(当時)より、大学設置認可の報を受ける。
平成 7 (1995) 年	身延山短期大学改組により4年制身延山大学(仏教学部仏教学科)開学。身延山大学東洋文化研究所設立。身延山大学仏教学会発会。教職員免許授与課程認可。高等学校教諭1種(公民、宗教)、中学校教諭1種(宗教)。博物館学芸員資格取得授与課程届出受理。入学試験委員会、学生生活委員会、就職委員会設置。身延山短期大学図書館から身延山大学附属図書館に名称変更。学園講座始まる(現在)。
平成 8 (1996) 年	社会教育主事資格取得授与課程届出受理。自己点検・評価委員会、カリキュラム委員会設置。身延論叢編集委員会編『身延論叢』刊行始まる。県民コミュニティーカレッジ始まる(現在)。
平成 9 (1997) 年	東洋文化研究所編『身延山大学東洋文化研究所所報』刊行始まる。サマーセミナー開講(平成22年まで)。身延公開講座、公開講演会始まる(現在)。
平成 10 (1998) 年	蔵書検索システムBLABO運用開始。
平成 11 (1999) 年	仏教学科に仏教教養コースと仏教探求コースを開設。情報管理委員会設置。東洋文化研究所仏像制作修復室設置。静岡公開講座始まる(現在)。
平成 12 (2000) 年	身延山大学仏教学部編『身延山大学仏教学部紀要』刊行始まる。仏像制作修復室学外展覧会始まる(平成20年まで)。
平成 13 (2001) 年	身延山大学編『日蓮宗莊嚴全書』刊行。ラオス人民民主共和国情報文化省と仏像修復保存プロジェクト調印、ルアンパバン世界遺産地区寺院調査開始(現在)。甲府公開講座始まる(現在)。
平成 14 (2002) 年	ラオス人民民主共和国情報文化省との提携により世界遺産地区仏像修復保存プロジェクト開始。
平成 15 (2003) 年	生涯学習委員会設置。出張講座始まる(現在)。
平成 16 (2004) 年	仏教福祉学科届出受理。介護福祉士・指定保育士養成施設の指定内示(関東信越厚生局)。寺子屋講座始まる(平成21年まで)。
平成 17 (2005) 年	仏教福祉学科介護福祉コース・児童福祉コース開設。仏教学科・仏教福祉学科の2学科4コース制導入。学生生活委員会及び就職委員会廃止。身延山宝物館・附属図書館合同展覧会始まる(現在)。
平成 18 (2006) 年	特定非営利活動法人大学コンソーシアムやまなし参画。学生支援委員会設置。
平成 19 (2007) 年	仏教学科のコースを「宗学コース」、「文化コース」に変更。東洋文化研究所編『知恩報恩一身延山学園450年誌』刊行。
平成 20 (2008) 年	日蓮宗尼衆宗学林との教育研究提携締結(現在)。
平成 21 (2009) 年	仏教福祉学科のコースを「福祉学コース」、「こども学コース」に変更。国際交流委員会設置。大韓民国金剛大学校と友好交流協定締結(現在)。
平成 22 (2010) 年	仏教福祉学科を福祉学科に名称変更。学校法人身延山学園刷新委員会設置(平成25年まで)。
平成 23 (2011) 年	東洋文化研究所『身延山資料叢書』刊行始まる。仏像制作修復室「悲母観音」制作開始。仏像制作修復室「ラオス仏像修復プロジェクト10周年記念修復仏像展」開催(国立王宮博物館、ルアンパバン)。
平成 24 (2012) 年	仏像制作修復室『のみおと一工房便り』刊行始まる。東洋文化研究所、大韓民国金剛大学仏教文化研究所と共同研究開始。
平成 25 (2013) 年	学校法人身延山学園常勤理事会設置。人事委員会設置。FD委員会設置。身延山大学仏教学部編『身延山大学教養選書』刊行始まる。山梨県立身延高等学校と高大連携事業開始。
平成 26 (2014) 年	平成25年度大学機関別認証評価を公益財団法人日本高等教育評価機構にて受審し、大学評価基準に適合と認定される。身延町教育委員会と事業協定締結(現在)。社会福祉法人秀生富士中央ケアセンターと社会活動の単位認定。仏像制作修復室「仏像修復15周年記念式典」開催。(ラオス人民民主共和国)
平成 27 (2015) 年	「日蓮大聖人御降誕800年慶讃記念事業」・「日蓮大聖人身延山開創750年慶讃事業」として「身延山大学開創20周年記念本館耐震改修工事」を実施。東洋文化研究所『法華経研究叢書』刊行始まる。仏像制作修復室「悲母観音」奉納(陸前高田市妙恩寺)。仏像制作修復室「慈母観音」制作開始。東洋文化研究所、大韓民国東国大学校仏教文化研究院と学術協定締結(現在)。開学20周年記念事業(京都公開講座、記念式典並びに公開講座)。



身延山大学 開学20周年に あたって

身延山久遠寺法主 身延山学園総裁
内野 日総

身延山は宗祖日蓮聖人が晩年9箇年をお過ごしになられた棲神の霊山でございます。日蓮聖人は文永11年に入山されてから、檀越に宛てられた数多くのお手紙に、身延の山が「法華経説法の会座である霊鷲山にも劣らない霊地」とであると述べられていらっしゃいます。この身延の地において日蓮聖人は御自身の半生を振り返る日々を送られるなかで、門弟教育にも着手されたのです。

これを契機としまして日蓮聖人御存命中の身延山は、教主釈尊の真意を求める者の集う場となり、「門弟教育の祖山」ともなったのであります。この伝統は日蓮聖人滅後も絶えることなく継承されました。殊に第11世行学院日朝上人は身延山の寺院運営に尽力するだけでなく、学問研鑽においても教団史の中に名を残され、その理念は第14世善学院日鏡上人へと受け継がれました。弘治2年には身延山西谷に学室「善学院」を開設し、身延における門弟教育の礎を築かれたのであります。

日鏡上人は日蓮聖人以来受け継がれた「祖山における講学」こそ日蓮教団の存亡を握ると考えられました。「善学院」設立当初の規模は大きくはなかくとも幾多の英傑学僧を排出する学室となったのであります。特に日鏡上人の門弟教育の理念と行動が、天文法難による日蓮教団の壊滅的危機を救う結果となったことは特筆すべきことでありましょう。

時代は降り、慶長9年に身延山第22世心性院日遠上人は善学院にて講を開いて新たな学室を設けられ、これより「善学院」は「西谷檀林」へと引き継がれていきました。檀林へと変貌を遂げた「西谷檀林」は脈々として門弟教育が継続され、江戸中期には全盛期を迎えることになるのです。

明治7年に、「西谷檀林」は明治政府の学制により廃檀となりますが、その後も「日蓮宗中教院」、更に「日蓮宗大檀支林」「宗義専門学校」「宗学林」「小檀林」「身延山小学林」「祖山大学院」「祖山学院」「身延小学林」「祖山専門学校」と改称が繰り返され、昭和25年には学校教育法により「身延山短期大学」の認可を受け、また昭和30年には宗教科三年制短期大学として改組され法器育成の灯を絶やすことがなかったのであります。そして平成7年に四年制大学「身延山大学」として新たな歩みを始めました。

日蓮教団は数多くの難儀に直面した歴史を有しますが、日蓮聖人の「門弟教育の理念」は身延山歴世によって護持され、人材が育まれ、教団存亡の危機を回避して参りました。近年の大都市一極集中、少子化という社会情勢にありまして、大学淘汰ともいえる時代に20周年を迎えました身延山大学の学燈が絶えることなく引き継がれ、学術研究・法器育成・社会貢献の府として更なる発展を遂げられんことをここに切望するものであります。



身延山大学 開学20周年に よせて

身延山久遠寺総務 身延山学園理事長
井上 瑞雄

平成6年に身延山大学仏教学部仏教学科の設置が認可され、翌年4月4日に身延山短期大学が四年制大学に移行して、初めての入学式が挙行されてより20年の節目を迎えました。身延山大学開学20周年にあたり、身延山大学理事長としてご挨拶申し上げます。

四年制移行後の初めての入学式では、身延山学園総裁であられた身延山第90世・岩間日勇上人がご臨席遊ばされ、宮崎初代学長、永田同窓会副会長、身延山執事、千須和身延町長等が出席され、師僧、保護者らの温かい拍手に迎えられ、第一期生45名が本学に入学したと聞き及んでおります。

ご承知の通り学校法人身延山学園の淵源は、日蓮大聖人が西谷の御草庵に於いて弟子信徒に講学を始められた事に遡ります。爾来、弘治2年（1556）に第14世・善学院日鏡上人が仏教の学問所である「善学院」を開設。慶長9年（1604）には第22世・心性院日遠上人が西谷檀林を開設し、その後、明治38年に祖山

学院、昭和16年に身延山専門学校、昭和25年に二年制の身延山短期大学へ昇格、更には同30年に三年制の短期大学への変遷を経て、平成7年に四年制の最高学府へと改変いたしました。

四年制大学としては若輩大学ですが、然し乍ら善学院の開設より460年余の長い歴史と伝統が培われました身延山大学は、身延山法主猊下をはじめ、本山貫首、宗会議員、宗務所長等の衆多の宗門要路を輩出し、祖山身延山はもとより宗門興隆の礎を築いて参りました。

現在の日本は少子高齢社会を迎え、地方では急速な過疎化が社会問題となっておりますが、各大学では学生数の減少が学校運営を大きく左右する事から、学生確保が最重要課題の一つとなっております。本学もまた例に漏れる事は無く、近年は学生数の定員割れが続く深刻な問題となっておりますが、加えまして平成21年に大学基準協会より、大学評価基準が不適合との裁断が下され、学園経営の抜本的な改革を進めました。その結果、平成26年3月に日本高等教育評価機構より、平成25年度大学機関別認証評価に於きまして、基準が適合していると認定され安堵いたしました。が、前述の如く大幅な学生数の減少に伴います経営の逼迫状態が改善された訳ではありません。

長い歴史と伝統を刻みます身延山大学を、これからも後世に継承すべく鋭意精進を重ねて参りますので、関係各聖各位の更なるご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げます。併せて、開学以来、本学の興隆に尽瘁された多くの先師各位に甚深なる万謝の念を顕しますと共に、皆様方の愈々のご健勝をお祈り申し上げます。

合掌



身延山大学 開学20周年を 迎えて

身延山大学長
浜島 典彦

身延山大学は、平成7年に短期大学から四年制大学に改組し、平成27年に20年を迎えることができました。人間でいうなら漸く二十歳、大学としての第一歩を踏み出したばかりというところでありましょう。これ偏に身延山の深いご理解と多大なご支援、また同窓会、日蓮宗教師の陰に陽の物心両面の支えがあった賜と、衷心より深甚の御礼を申し上げます。

全国に私立大学が六百余校あるというなか、最も小規模校といわれておりますのがわが身延山大学（現在、1学部2学科、定員160名）であります。大学は山紫水明の地に位置し、アクセスの便が良いとはいえません。その学び舎に若人が全国から、殊に近年では社会人、会社を退職した方が数多く集ってきます。その最も大きな理由は、身延山が日蓮聖人の魂魄まします地にありますことに外なりません。

日蓮宗総本山久遠寺に併設された身延山大学は、開創の弘治2年（1556）より今日に至るまで、法器育成・地域社会貢献、また国

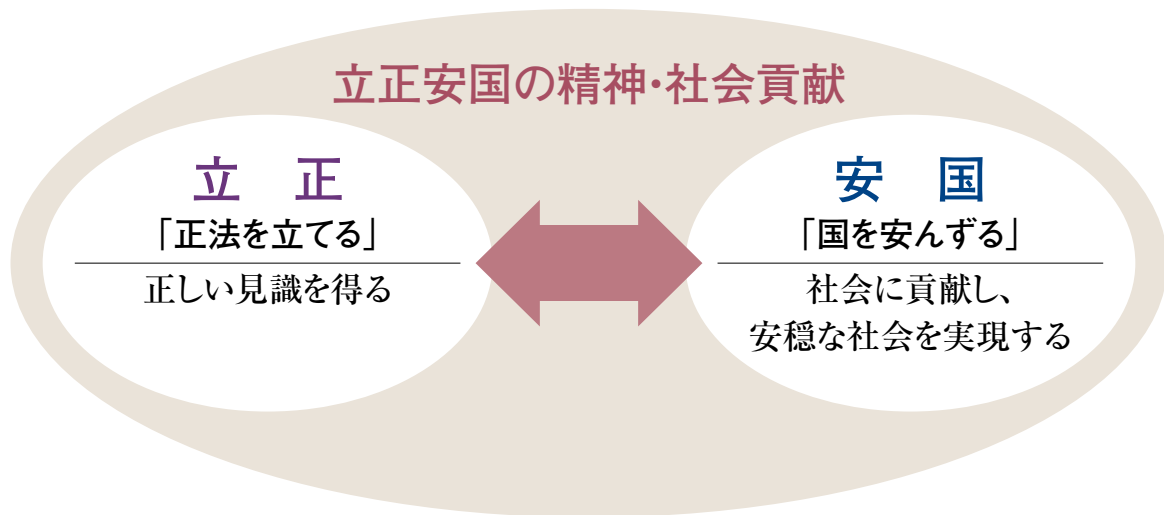
内外に仏教の知的発信基地としての役割を現在まで担ってまいりました。例を挙げますなら、ラオスにおける仏像修復、人材育成事業でありましょう。この事業に対し、宗内からばかりでなく、国際協力基金あるいは仏教伝道協会から資金提供を受けております。お陰さまで文部科学省や外務省、宗教系大学からは「仏像修復で国際協力の身延山大学」として認知されるようになりました。

身延山大学の淵源は言及するまでもなく、日蓮聖人の弟子檀越教育にあります。その様子は『兵衛志殿御返事』に「人はなき時は四十人、ある時は六十人」、あるいは『忘持経事』に「法華読誦音響青天 一乗談義言聞山中」と看取できます。爾来、身延山は教育と共に発展してきたといっても過言ではありません。第二祖佐渡阿闍梨日向上人は学頭として日蓮聖人の教学を継承され、第11世行学院日朝上人は大坊等の諸堂の移転並びに門下の教育に努められました。毎月三日に「三日講問答」、毎年開宗会に催された「立正会問答」、諸宗にわたる論議として「例講問答」を行い、これらの問答講会の論議の浅深は日朝上人自ら評決したという記録が身延文庫に現存しております。第14世善学院日鏡上人による「善学院」開創、これがのちの西谷檀林の嚆矢であるのです。第22世心性院日遠上人は教育体制の規模を拡大されて学制を整え、「西谷檀林」を築かれました。西谷檀林は、明治7年（1874）の廢檀に至るまでの約300年間、宗門教学の発展と人材育成に多大なる寄与と貢献を果たしたのであります。そして、第73世新居日薩和上は宗門の教育体制を整備し財政支援の組織を構築されたのであります。

これら先師方の教学振興と法器育成への熱き想いの御恩に報いるためにも、身延山大学は社会貢献を学是とする大学として更なる発展を遂げていく覚悟であります。

建学の精神

本学の建学の精神は、日蓮聖人の立正安国の精神に則り、健全なる社会人として、広い視野に立った専門教育を施し、学術の理論及び応用を教授して、社会のために身を以て尽くすことの出来る人間の養成を目的としている。



教育方針

■『諸法実相鈔』のころ

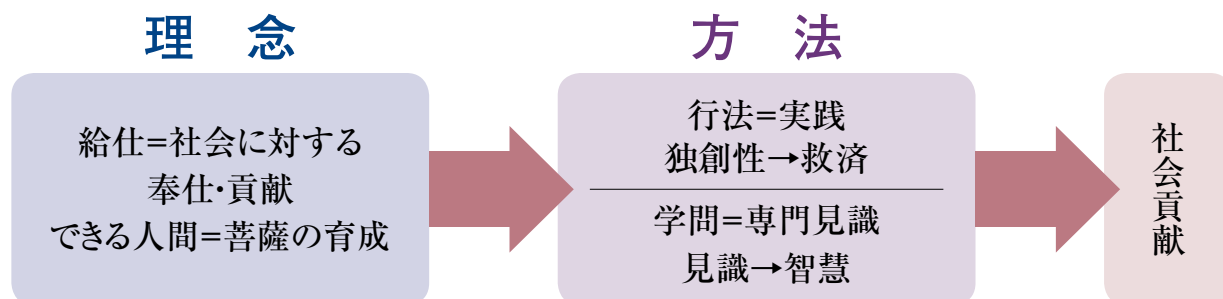
一閻浮提第一の御本尊を信じさせ給へ。
あひかまへて、あひかまへて、信心つよく候て
三仏の守護をかうむらせ給べし。
行学の二道をはげみ候べし。
行学たへなば仏法はあるべからず。
我もいたし人をも教化候へ。
行学は信心よりをこるべく候。
力あらば一文一句なりともかたらせ給べし。（昭和定本・728-729頁）

『諸法実相鈔』

本書は日蓮聖人佐渡流罪中に執筆された御遺文である。その内容には行学二道に対する不断の心構えが示されており、本学は教育方針の学是を本書にある「信仰と学問のたゆまぬ研鑽と探求」に求める。

「給仕」・「行学二道」と「社会貢献」

建学の精神から求められる社会人を養成するためには何が必要かを考えると、「給仕」・「行学二道」と「社会貢献」という三つの柱が重要となる。これらの関係は下図のようになる。



1『理念』 社会に対する奉仕・貢献……給仕=菩薩の育成

「給仕」は英語で表現すると「サービス」というなじみ深い言葉となる。「サービス」とは、人の役に立つこと・奉公・奉仕などといった意味で、広くは「社会に対し貢献・奉仕する」ことである。「社会のために身をもって尽くす」ことを「理念」として捉え、こうした意味での「給仕」ができる人間育成が本学の教育理念である。「給仕」するためには他者の痛み・苦しみを自らの痛みとして捉えられる事のできる姿勢、他者に対し等しく尊敬の念を抱くことのできる姿勢こそが重要であり、この人間像こそが仏教の言葉でいう「菩薩」に他ならないのである。

2『方法』 行法（救済）、学問（智慧）……行学二道

本学が掲げる「理念」を実現させるために求められるのが「行学二道」、つまり「行法」と「学問」である。「行法」というと僧侶の厳しい修行と捉えがちであるが、「実践」と捉えるならばどうであろうか。つまり「行法」とは僧侶や仏師、福祉従事者、一般社会人として他者の心身を救済する、という本学の「理念」を実践していくことになる。こうした実践には「学問」によって獲得した智慧が必要となり、「智慧」とは、ただやみくもに知識を集積したものではなく、獲得した専門知識を活かし、社会に対して、また他者に対して自分の見識を持つことから生まれる。つまり積極的に獲得した「学問」に基づき、それに裏打ちされた独創性にあふれた「行法」を構築していくことが「行学二道（社会貢献）」なのである。

3『本学における人間養成の精神……社会貢献』

人にはそれぞれの役割がある。本学では学生の個性にあわせた社会貢献の方法・役割を身につけさせていく。人は、現代社会において手に手をとって社会に貢献し、安穏な社会を実現させなくてはならない。日々の「学問」を通し、培った見識に基づき、「実践」の対象・方法を選びとり練り上げていくことが必要なのである。

1 アドミッションポリシー（本学が求める学生像）

①好奇心を持ち、さらなる探求心を培おうと思う人

②見識を深め、自己を向上させようとする人

宗学コース

①僧侶として実践の場で活躍したい人

②仏教の教えを学び、社会に貢献したい人

③宗教界の指導者を目指す人

文化コース

①寺院巡りが好きで、仏教史や仏像彫刻を学びたい人

②アジアの仏教に関心があり、仏教のルーツを探ってみたい人

③世界の諸宗教に関する知識を身につけたい人

2 カリキュラムポリシー（仏教学科教育課程の編成方針）

身延山大学仏教学部仏教学科では、その建学の精神「立正安国」（教育理念）に基づき、高い専門性をもった人材を養成します。仏教学科に宗学コース・文化コースの2コースを設置し、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

仏教学科

①仏教の持つ普遍的哲学性をより発展させ、社会に対する奉仕、実践・見識、社会貢献を重んじる人材を育成します。

②両コースを通じ、広範で多様な基礎的知識と基本的な学習能力の獲得のため、すべての学生が履修する全学共通科目を開設しています。

宗学コース

①インド・中国・日本の仏教思想、仏教史を学びます。

②日蓮聖人の行動と思想を中心に法華思想はもちろん、日蓮教学、日蓮教団史を学びます。

③仏教を応用し、実践的に学習できるような科目を開設しています。

文化コース

①伝統的な仏教学を基礎とし、仏教美術・仏教文化を学びます。

②博物館や寺院の資料の取り扱い方、資料調査・整理・保存・展示の方法などを学びます。

③卒業制作では仏像（主に「祖師像」や「鬼子母神像」）を制作する講義を開設しています。

3 ディプロマポリシー（卒業認定・資格認定に関する方針）

身延山大学仏教学部仏教学科で以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

仏教学科

①学科・コースにおける体系的学習を講義形式学習、演習形式学習、実践形式学習に分けることにより、現代社会における多様な課題を発見、分析、解決する力を身につけた人。

②修得した知識の活用能力、批判的・論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現力、コミュニケーション力などの総合力を身につけた人。

宗学コース

①仏教学・仏教史・日蓮教学・日蓮教団史の専門知識を修得し、仏教者として総合的・多角的な知識を身につけた人。

②仏教実践科目を修得し、日蓮宗僧侶として布教現場に即応できる知識と能力を身につけた人。

文化コース

①伝統的な仏教学を基とし、仏教美術・仏教文化を中心に「広義の仏教学」を身につけた人。

②仏像彫刻・修復、博物館学を学び、現代社会に即応できる総合力を身につけた人。

1 アドミッションポリシー（本学が求める学生像）

- ① 生命の大切さを知り、人のケアが好きだといえる人
- ② 一人一人の個性を尊重し、相手の視点に立つことができる人
- ③ 主体的、かつ柔軟に思考することができる人

- 福祉学コース**
- ① 人を敬い、やさしい心をもった人
 - ② 厳しい環境にあっても、人を敬い、やさしい心を持てる人
 - ③ 将来、福祉の分野で活躍したいと考えている人

- こども学コース**
- ① からだを動かし、五感をはたらかせて考えようとする人
 - ② こどもが好きで、こどもをとりまく世界や問題を様々な領域から学びたい人
 - ③ こどもに関わる専門的職業に携わり、地域・社会に貢献する意欲を持っている人

2 カリキュラムポリシー（福祉学科教育課程の編成方針）

身延山大学仏教学部福祉学科では、建学の精神に基づき、慈悲の心を養った上で、社会福祉に精通した人材を養成します。福祉学科に福祉学コース・こども学コースの2コースを設置し、以下のような方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。

- 福祉学科**
- ① 乳幼児から高齢者までを対象とするさまざまな領域の福祉に対応できる人材、地域福祉の役割を担える人材を養成します。
 - ② 両コースを通じ、仏教福祉に関する専門的な知識、対人援助における実践的な技術等を身につけ、実践力を獲得するため、すべての学生が履修する全学共通科目を開設しています。

- 福祉学コース**
- ① 福祉学コースでは、高齢者や障がい者などの利用者の人権尊重と生活上の課題解決に対して「社会福祉概論」・「生活支援技術」・「医療的ケア」など様々な支援ができるような科目を開設しています。

- こども学コース**
- ① こども学コースでは、子どもを取り巻く多様な生活課題に対応できるように、「保育の心理学」、「家庭支援論」、「保育相談支援」など、子どもと家庭の福祉に役立つ科目を開設しています。

3 ディプロマポリシー（卒業認定・資格認定に関する方針）

身延山大学仏教学部福祉学科では、以下のような能力を身につけ、かつ所定の単位を取得した学生に学位を授与します。

- 福祉学科**
- ① 社会学・心理学等の一般教養科目を身につけ、さらに仏教福祉に関する知識を十分身につけた人。
 - ② 社会福祉に関して明確な問題意識を持ち、多面的に考察し、他者に伝えることができるコミュニケーション能力がある人。
 - ③ 演習形式学習、実践形式学習を行うことにより実践力を高め、福祉現場でそれを活かすことのできる人。

- 福祉学コース**
- ① 利用者の人権を尊重することができ、専門知識を用いて自立支援を行える人。
 - ② 社会福祉の仕組みや法制度の意義を理解し、利用者の全体像を通して、生活上の課題を明らかにし、支援技術を実践できる人。

- こども学コース**
- ① 子どもの成長や発達の理解について、専門的知識と技能、技術を身につけた人。
 - ② 子どもや家族に関する諸問題に柔軟に対応できる幅広い知識を持ち、実践的な問題解決能力を身につけた人。

教育関連施設



身延山大学本館

昭和42年(1967)10月に完成。

平成28年(2016)2月耐震補強工事完成。

大講堂／教員研究室／東洋文化研究所／各種教室

大学会議室／事務局／カウンセリングルーム／ラウンジ

応接室／保健室／コンピュータ室

身延山大学附属図書館

昭和63年(1988)11月に完成。

各種会議室／稀覯本書庫／蔵書開架書庫／開架閲覧室(1階・2階)

レファレンスルーム／博物館学実習室／視聴覚資料室

マイクロフィルムリーダー室／図書館事務室／館長室／監事室



芙蔬館(実習棟)

平成16年(2004)10月に完成。

音楽室／図画工作室／カウンセリングルーム／小児保健実習室

調理実習室／学生ラウンジ／介護実習室／インフォメーション

男女シャワー室・更衣室

体育館

昭和51年(1976)10月に完成。

体育実技のほか、各種体育系サークルや
各種イベント会場として使用されています。



仏像制作修復室

平成11年(1999)4月に完成。

通称「工房」。木彫仏、塑像、石仏など
多くの仏像修復を行ってきました。

福利関連施設



学生食堂

平成10年(1998)10月に最初の学生食堂完成。
現在の学生食堂は平成27年(2015)4月完成。
定番メニューに加えて、ゆば井など本学独自の
オリジナルメニューが人気です。

テニスコート(3面)・多目的グラウンド(2面)

体育実技のほか、クラブ・サークル活動、
時にはレクリエーションなどに使用されています。



本院寮(久遠寺内学生宿舎)

檀林教育以前から行われた735年の歴史ある僧道教育研鑽の場。
日蓮宗総本山身延山久遠寺の各種法要に出仕することにより、
インターン(実践教育)の環境となっています。

行学寮(僧道用学生寮)

昭和48年(1973)10月に完成。大学附属の僧道実践施設。
寮生は寝食を共にして自己の修練に励みます。
特に毎年6月に催される施餓鬼法要は全てを寮生が執り行います。



女子寮

平成16年(2004)10月に完成。在寮生の自己管理がモットー。
先輩、後輩の垣根を越えた在寮生どうしの関係は、
楽しくもあり良い経験となっています。

身延山学園校地面積：7586.28m²

学生個人のニーズに合わせたマンツーマンの共鳴教育



僧道の実践的学修



介護の実践授業



アクティブラーニング授業



デスエデュケーション(死の準備教育)



博物館学芸員課程の実践的演習



ゼミナール(PBLによる地域貢献実践)バリアフリーマップの作成



仏像制作修復室での実践教育



児童館でのボランティア活動(地域連携授業)



久遠寺大本堂での法要



行学寮の安倍川行脚(災害慰霊)



学園祭(ヴァンフォーレ甲府の選手も来校)



留学生との交流

大学を取り巻く環境が教育の場・自然あふれる環境のなかで生活



オープンキャンパス



ラーニングcommons

《取扱奨学金等一覧》

現在本学で取扱う奨学金制度及び特待生制度等は下記の通りである。

身延山学園奨学金／立正育英会奨学金／身延山学園・同窓会身延山大学保護者会奨学金／あいりレー奨学金／松木本興奨学金／育英会マイトレーヤ奨励金／財団法人赤尾育英奨学会／山梨県介護福祉士等修学資金／身延山大学授業料減免制度／身延山大学特待生奨学金制度／独立行政法人日本学生支援機構奨学金貸与



立正育英会奨学金給付式

■附属図書館

附属図書館は身延山短期大学図書館時代の昭和42年に建設された鉄筋5階建校舎（現、本館）4階に資料室（書庫）、3階に図書室・資料室（書庫）・職員事務室が充てられていましたが、昭和62年に日蓮大聖人700遠忌記念事業の一環として現行の附属図書館の建設が始まり、平成2年（1990）より運用を開始しました。現在の蔵書は約20万点におよび、身延山伝来の古典籍をはじめとする仏教資料、特に日蓮宗関係の典籍資料を網羅的に収集、保存、公開しています。また、福祉学科に関わる福祉・幼児保育関連資料の収集にも努めています。さらに、身延山に縁の有る個人からの寄贈により、現在11件の「個人文庫」が所蔵されています。近年では外部機関と連携して合同企画展を開催しています。

■東洋文化研究所

東洋文化研究所は、本学の前身である身延山短期大学に設置されていた「佛教文化研究所」を母体とし、平成7年（1995）に同短期大学が身延山大学へ改組転換したことに伴い、「東洋文化研究所」と改称し設立されました。本研究所は、建学の精神である日蓮聖人の立正安国の精神に則り、仏教並びに仏教文化に関わる諸般の研究・調査を行い、学問の進歩・発展に寄与することを目的としています。とくに日蓮宗を代表する研究機関として、身延山久遠寺の「身延文庫」をはじめ山内資料の調査も行っており、この調査報告を『身延山資料叢書』として刊行しています。本書は、これまで非公開だった「身延文庫」所蔵資料を影印として公開しているため、他大学や研究機関、海外からも寄贈が求められる刊行物となっています。さらに『法華経』研究の拠点としての役割を担うべく『法華経研究叢書』も刊行しています。役職員の研究成果は、本研究所の機関誌である『身延山大学東洋文化研究所所報』を通じて広く公開しています。平成12年には仏像制作修復室を設置し、現在世界遺産であるラオス人民民主共和国のルアンパバーンの寺院に安置されている仏像の修復プロジェクトなどを行っています。この修復活動についてはラオス側より情報文化・観光省美術工芸局、さらに国立ビエンチャン美術大学の技官・教員も参加し、ラオスと東洋文化研究所間の国際交流事業として成果を挙げています。

■身延山大学仏教学会

身延山大学仏教学会は、平成7年（1995）の発足以来、本学の学長を会長とし、専任教員を評議員・維持会員、本学のOBや日蓮研究者・仏教研究者などを一般会員として構成される学会です。現在の一般会員数は110名、維持会員は13名で、学会の監事2名は、一般会員・維持会員の中から会長が委嘱しています。身延山大学仏教学会の機関誌である『身延論叢』の前身である『棲神』の歴史は古く、祖山学院時代の大正2年（1913）の創刊より、戦中・戦後の混乱期のなか昭和18年（1943）より昭和28年（1953）の間に中断はあったものの、身延山専門学校・身延山短期大学時代も刊行は継続されてきました。平成7年（1995）、身延山短期大学は4年制の身延山大学へと改組転換を果たし、それに伴って『棲神』の刊行母体である「身延山短期大学学会」も「身延山大学仏教学会」へと改組され、その機関誌も『身延論叢』へと改称しました。そして平成8年（1996）に創刊された『身延論叢』は、現在、第20号を刊行するに至っています。

進路

年度	仏教学科				福祉学科			
	卒業者数	就職希望者数	就職者合計	就職率	卒業者数	就職希望者数	就職者合計	就職率
合計	388	351	335	95%	65	64	63	98%
26年度	17	16	16	100%	9	9	9	100%
25年度	11	9	9	100%	8	8	8	100%
24年度	13	10	9	90%	2	2	2	100%
23年度	23	22	20	91%	8	8	8	100%
22年度	26	22	20	91%	17	16	15	94%
21年度	15	13	11	85%	16	16	16	100%
20年度	20	19	19	100%	5	5	5	100%
19年度	28	25	23	92%				
18年度	26	25	25	100%				
17年度	19	13	12	92%				
16年度	15	15	14	93%				
15年度	29	28	28	100%				
14年度	20	20	17	85%				
13年度	20	17	16	94%				
12年度	32	28	28	100%				
11年度	32	27	27	100%				
10年度	42	42	41	98%				



就職先

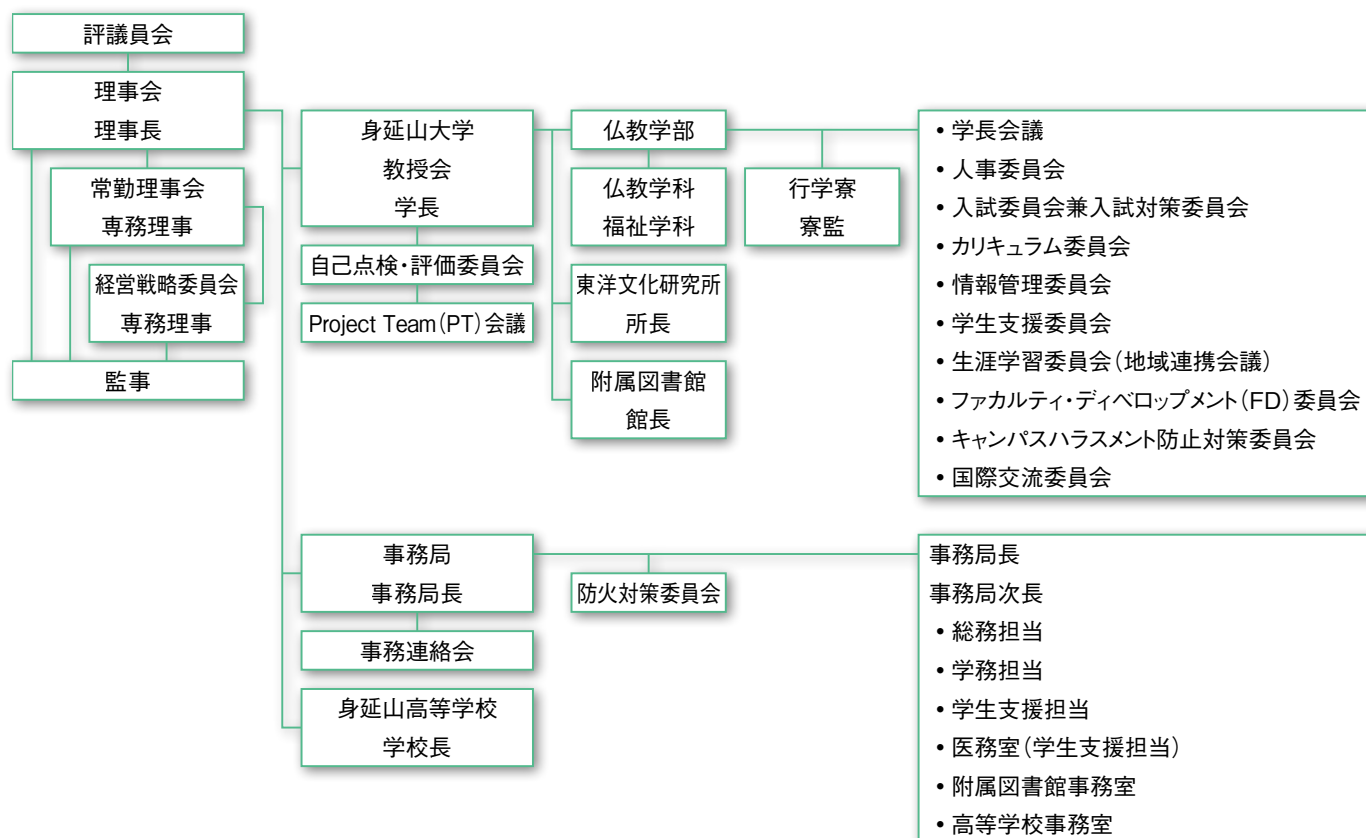
宗門関係 (265名) : 身延山久遠寺、北山本門寺、堀之内妙法寺、実相寺、瑞輪寺、題経寺、七面山敬慎院、その他寺院

一般就職 (130名) : (株)小泉東海、(株)吉野家D&C、コーベベビー(株)、日本ガス興業株式会社、山梨トヨタ自動車株式会社、特別養護老人ホーム、身延山大学、天建組(株)、(株)三輪商会、円崎興業(有)、(株)システムウェブ、防衛庁職員(海上自衛隊員)、(株)渋川塗装店、社会福祉法人サンライフ(特別養護老人ホーム)、(株)サカイ引越センター、(株)高校生新聞社、(有)ネオビス、(株)わらび座、鹿児島警備保障(株)、(株)日蓮宗新聞社、有限会社あまの、平楽グループ、但馬信用金庫、丸一倉庫(株)、(株)北上製作所、(株)ダイイチ、社会福祉法人緑会(特別養護老人ホーム)、(株)シルバーネット、エムケイ株式会社、富士運送株式会社、(株)コムテックス、介護老人保健施設あおばケアガーデン、東海マート(株)、(株)さえき、(有)山十商事、(株)プリカ、巴協栄リネン(株)、有限会社エコロジー、社会福祉法人関西福祉会、西之表農業協同組合、身体障害者療護施設 麦の家、平安仏所、小西美術工芸社、甲信越福山運輸(株)、関東防災工業(株)、花征、遠鉄観光開発(株)浜松オルゴールミュージアム、社会福祉法人十条龍谷会ビハラー十条、上河東保育園、予備自衛官、(株)オー・エス・ピー、買取販売ブレイド、ウォーターライフ社、甲府市役所(保育士)、社会福祉法人四ツ葉会特別養護老人ホーム杉の子「元気の家」、(株)ケー・アールジー デイサービスセンターきぼう、社会福祉法人富士厚生会、国土交通省、医療法人銀門会甲州ケア・ホーム、(株)マルエスフリージングジャンクション、社会福祉法人早川町社会福祉法人、(有)ノベライズ社 グループホーム麻生、(有)ファーマシー・グラム、身延町早川町組合立 飯富病院、社会福祉法人興邦会 老人デイサービスセンターしもべ荘、伊豆の国市臨時職員(保育士)、社会福祉法人三井福祉会敷島緑陽園、社会福祉法人友和会 身体障害者通所授産施設フレンズ、社会福祉法人山梨ライトハウス知的障害者更生施設青い鳥成人寮、社会福祉法人芙蓉会みどり園、(有)ライフサポートなごみ、アメリカンダイニングOldHangar、(株)翠雲堂、(有)ワイルドミュージックスクール、医療法人喜生会、倉敷中島郵便局、社会福祉法人札幌緑花会、社会福祉法人清珠荘久遠の里、社会福祉法人豊住福祉会リボンデイサービスセンター、社会福祉法人富士厚生会、社会福祉法人春風会特別養護老人ホームあしたかホーム、特定医療法人南山会、ハートサービス(株)、社会福祉法人三井福祉会、特定非営利活動法人甲西福祉会どんぐりの家、山梨県立峡南高等学校、(株)フォネット、社会福祉法人清和福祉会大野山保育園、甲斐市立竜王中央保育園、社会福祉法人信愛会富士わかば保育園、社会福祉法人昭徳会安立荘、身延山高等学校、社会福祉法人日新会 ロイヤルあかし、社会福祉法人三井福祉会敷島緑陽園、たんぽぽ子どもの家保育園、(株)IGA、社会福祉法人誠信会児童養護施設誠信少年少女の家、社会福祉法人武蔵野会さくら学園、身延町児童館、(株)夢真ホールディングス、あいりレー介護事業グループ、社会福祉法人富岳会富岳の園、社会福祉法人ぎんが福祉会コスモス通所、鈴善漆器店、医療法人社団富士恵仁会介護老人保健施設いかる野、富士川町社会福祉協議会、特定非営利活動法人介護屋さわかみ、社会福祉法人日新会ロイヤルあかし、社会福祉法人白風会いちいの木、身延町臨時職員(保育士)、甲斐市臨時職員(保育士)、社会福祉法人八ヶ岳名水会、社会福祉法人富士厚生会、自衛隊、身延山高等学校、望月建築、たいとう診療所、社会福祉法人みどりの里特別養護老人ホーム豊水園、株式会社カインズ、社会福祉法人寿真会特別養護老人ホームらくえん、株式会社福祉の杜いまいじん、社会福祉法人光風会風の子保育園、甲斐市市役所、甲南立正保育園

進学 (19名) : 立正大学大学院、東京芸大大学院、中国短期大学、山梨学院短期大学、興隆学林専門学校、歯科医補助、情報処理関係専門学校、アイシーケア専門学校、専門学校(電気関係)、東京教育専門学校、京都コンピューター学院、中央仏教学院、東京アカデミー(通信)、北海道鍼灸専門学校

その他 (14名) : 身延山大学聴講生、身延山大学科目等履修生、家事手伝い、自営業

■学校法人身延山学園運営組織図



平成27年4月1日現在

身延山大学開学20周年記念 身延山大学 開学20年の歩み

発行日 平成28(2016)年2月16日
編集 身延山大学開学20周年記念誌刊行会議
発行人 浜島 典彦
発行所 身延山大学 山梨県南巨摩郡身延町身延3567
TEL 0556-62-0107
印刷 株式会社 イーフォー

